

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホーム ひだまりAユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成25年12月15日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏場は天候の良い日にはなるべく散歩に行き、季節の変化を楽しんでいます。ドライブやお祭りにと外出行事に参加される方も多く、楽しんで頂いています。外に行けない時は室内での歩行運動やラジオ体操・健口体操を日課とし、健康維持に努めています。一人一人に合わせ、貼り絵や編み物、パズルやテレビ鑑賞など、本人が希望される取組ができるよう支援しています。また、個々の能力に合わせ、茶碗拭きや洗濯たたみ・ふきん干しなどの役割が出来るよう支援し、毎日の生活を実感して頂いています。毎月の誕生会では、ホットプレーや土鍋を各テーブルに用意し、肉や野菜をみんなであつて食べてたりし、いつもと違った食事を楽しんでます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901613-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成26年1月16日		

<運営に関する家族との協働>

家族や地元の人々が参加する「ひだまり交流祭り」を開催して、本人・家族・職員の関係づくりに努め、意見や要望等言い表せる機会を作ったり、来訪時には話し合う機会を設けて運営に反映し、家族アンケートの結果では満足度は高い。また、家族には、利用者の一日の特徴的な様子を職員が日々観察し、「一日一行日誌」を毎月情報発信している。

<チームで取り組むケアサービスの実践>

毎月の全体会議やユニットごとのミーティング、日々の業務を通じて職員間で利用者一人ひとりのケアを話し合い、かかわりを多く持てるようにチームケアを実践している。また、身体拘束廃止等の内部研修会の実施や職員個々の努力や実践、勤務状況を把握し、労働時間や休暇取得など、就業環境の整備に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「ささえあい」「思いあい」「語り合い」「広げあい」の5つのあいを掲げ、会議やミーティングの場などで話し合う機会をもうけている。	事業所独自の理念を作り上げ、全体会議やユニット会議を通じて話し合い、その理念を共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひだまり祭りを毎年行っており、地域や家族・ボランティアとの交流を行っている。また、散歩や買い物での挨拶、中学生の体験学習の受け入れなどで交流を深めている。	「ひだまり交流祭り」を開催し、地域の人々や家族、ボランティアとの交流や日常の散歩や買い物での挨拶等で地元の人々との交流に努めている。また、中学生の体験学習の受け入れで事業所の持つ機能を地域に還元している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者にかかわらず、介護保険やその他の相談に来られたり、電話での問い合わせの相談に対して、役立つと思われる情報を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を設定し、地域の方々や家族、市職員に参加していただいています。会議の際、行事などの報告をし感想や要望を聞き、次回取り入れるよう参考にしていく。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、行事の予定や利用状況、地域との協力体制等について具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やひだまり祭りには、市職員の方にも毎回出席していただいている。また、事故があった時には、速やかに連絡し、対処の確認を行っている。	市主催の研修会参加や行事への参加案内、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議などで身体拘束についての勉強会をしている。また、研修会にも参加。日常的に職員間で「これは拘束にあたるか」など、常に話し合い意識して介護にあたっている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止の内部研修会で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、定期的に勉強会を行っている。虐待の定義を毎回再確認し、日常的に言葉使いなど「これはいけないのでは」と職員間で常に話し合い意識して介護にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加したり、資料を見て理解に努めている。必要な方、情報を知りたいと思われた家族の方などに、情報提供したり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時、または解約を行う時には入居者やご家族に、納得のいくまで十分時間をかけ説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2年に1度外部評価を受けているので、家族が外部に施設の評価を表す場を設けている。また、意見箱を設置したり、来所の際に声掛けて意見・要望を言いやすい関係を築くよう努めている。利用者からは、日常の会話から意見・要望を聞き出すよう努め、プランに反映させている。	本人・家族・職員の関係づくりに努め、意見や要望等言い表せる機会を作ったり、来訪時には話し合う機会を設けて運営に反映し、家族アンケートの結果では満足度は高い。また、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置し、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度全体会議・各ユニットミーティングを行い、状況・提案・意見を聞き話し合いの場を設けている。	毎月の全体会議やユニットごとのミーティング、日々の業務を通じて職員間で利用者一人ひとりのケアを話し合い、かかわりを多く持てるようにチームケアを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・資格等個々の努力に応じ評価している。また、職場環境の整備にも常に目を配らせ、改善できる点は職員といっしょに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外の研修の情報を提供し、積極的に参加することを勧めている。また、資格取得には資料や情報を提供し応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、包括支援センターを通じてであったり、研修会などで交流をもっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接の時間を十分にとり、本人の思いを聞き、家族からも利用者に関する情報を提供してもらい理解を深めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から情報を取りながら、希望・要望を聞き関係づくりに役だっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から話し合いをしてきた事をふまえ、家族・本人が今必要としている支援を双方納得のいく形で提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の趣味や思い・好きなことを尊重し、色々な事を一緒に楽しんでいる。その中で、共感したり教わる事もたくさんある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族に近況報告や情報交換を行い、変化があった時には、相談に乗ってもらっている。行事への参加をお誘いしたり、毎日どのように過ごしているかを1行日誌で1ヶ月ごとにお知らせし、家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人、今までの生活歴の情報収集を行い、馴染みの病院や美容院への支援をしたり昔からの友人との関係を継続できるよう支援している。	地域のゴミ拾い等の行事参加や自宅への訪問、散歩や買い物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している様子がある時にはスタッフが間に入り共通点を見つけ話題をふったり、ゲームを行うなどして関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受ける体制ができている。長期入院になり、退去された家族よりさまざまな相談を受けたことがある。また、退去後その家族からボランティアや物品の支援など交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や状態を把握し本人の希望を出来る限り実現できるように個別ケアに力を入れている。	一人ひとりの力を活かしながら洗濯や掃除、食後の後片付けや茶碗洗い等を行ったり、その日の希望にそっていつでも散歩に出かけられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・交流のあった方々から情報収集を行い、これまでに関わったサービス事業所からも情報提供を求め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状況の変化、生活パターンを把握し、1日の様子をその日の勤務者が介護記録に記入して全員が閲覧できるよう現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を確認し、日々の申し送りやミーティングなどで情報交換・意見交換し対策を検討している。必要に応じては、医療機関等専門機関に相談し、より良い対策を講じるよう努めている。	一人ひとりの生活歴やアセスメントの把握や全体会議・ユニットごとの会議で職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が記入されている介護記録に日々の様子やケアの実践・結果を記入している。情報の共有や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、病院への受診や医師・看護師の往診、訪問理美容・マッサージ・散歩・買い物・外出等柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・町内会長には地域運営委員会への参加をいただいている。また、避難訓練を通して消防機関とも連携を取っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望・同意のもと、かかりつけ医を決定する。それぞれが定期受診に加え、緊急時に相談したり、往診してもらえるかかりつけ医を確保している。	24時間体制で往診や訪問看護と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問の際、日常の様子や健康上の疑問・問題点を報告し、処置やアドバイスをもらっている。また、職員では把握しきれない健康管理や24時間の相談・緊急対応を受けてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時から職員が同行しているため、入院前から病院関係者とは情報交換している。入院中も訪問し、経過の確認を行い状況把握に努め、退院後の受け入れ準備を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でおおまかな終末期の希望を本人・家族から伺い、重度化してきた場合、家族・施設・医師と終末期のありかたをより話し合い連携を強化している。医師・看護師の協力のもと家族の理解と信頼を得ながら、職員一丸となって終末期をつとめさせて頂いている。	ターミナルケアを実践している。また、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所が出来ることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、AEDも設置され、施設で消防による講習も開かれている。医師や看護師に24時間連絡がつくよう連絡先が掲示されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回防災訓練を行っている。	スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。また、消防署の協力を得ながら年2回の火災避難訓練を実施している。	今後は、地震や水害等の自然災害時の避難訓練について地域との連携体制づくりを検討しているので、その実践に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ自分でやれる誇りを大切にしながら、職員は言葉かけや対応に十分配慮して対応している。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止の内部研修を実施して、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あくまでも入居者本位の自己決定となるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れに沿って、声掛けや誘導を行っているが、体調や気分によっては起床や食事の時間を変更したり、入浴日も変えたりしている。また、レクリエーション等希望を聞きやりにたいことを出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、自分で選んだ衣服を着たり訪問理美容でパーマや毛染めをしておしゃれを楽しんでいる。また、爪切りや髭剃りの支援も定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれに合わせた食べやすい状態で提供。個々のペースでゆっくり食事を摂っている。季節に合わせたメニューがあり、食べる事が楽しみとなるよう提供している。能力に合わせ、下膳や食器拭き等に参加している。	一人ひとりの嗜好の把握や力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。また、季節感に合わせたメニューづくりや五感を刺激するような献立を工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎回記録し、個々の摂取量を把握。体調や状況に応じて水分の増減・食事の形態を変え提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいは行えており、個々の状態や能力に応じて口腔ケアをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力や排泄パターンを把握し、チェック表で職員間の認識を統一させ、声掛けや誘導をしている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、嚥下体操やラジオ体操、歩行訓練等を組み合わせてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便パターンを把握し、不穏状況と便秘の関連を意識しながら、その時に応じた薬の調節を医師や看護師に相談しながら行っている。また、日々歩行運動や体操・水分調節したりと予防にも努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となっているが、その日の体調や、希望に合わせて変更が可能になっている。	週2～3回の入浴を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活状況に合わせてゆっくり過ごせるように心がけている。また、入居者の睡眠状況を把握し、状況に応じて休息できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、いつでも見られるようになっており変化に応じて確認できるようになっている。また、薬の変更があった時は、職員全員周知し、それによつての様子観察・記録記入に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせ、食器拭き・掃除・洗濯物たたみ・除雪をお手伝いしてもらっています。人によっては貼り絵をしたり、歌番組を見たり個々の楽しみに応じています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外、天候が許す限り毎日の散歩は基本であるが、季節を感じていただける場所に出かけたり、個々の希望に沿い、買い物や図書館など外出の機会は多くある。	お祭り見物や図書館訪問、毎日の散歩や桜見物、自宅の訪問や買い物等で戸外に出かけられるよう支援している。また、入居年数と共に身体機能の低下が見られるが、一人ひとりに寄り添った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせて事業所側でお小遣いを預かっているが、買い物の機会を作り、自分で選び自分で支払う喜びを感じてもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時にかけている。手紙は、本人の希望や能力に応じて書き、また届いた時は読んだり・読んで聞かせてくれたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自然と集まってくつろいだり、交流の場として気持ちの良い空間となっている。季節感のある飾り付けにより、目でも楽しんでる。テレビはつけっぱなしにならないように、音量は大きすぎないように十分考慮している。温度・湿度・換気を調節し、居心地良く過ごせるよう環境整備を意識的に行っている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、一人になったり、談笑ができるようにソファや椅子・テーブルが配置されていたり、行事参加の写真や習字等の作品が飾られ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、ソファや一人掛けの椅子を数か所置き、自由に過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族に、自宅となるべく近い状態で過ごすことの必要性を説明し、馴染みの家具・調度品持ってきていただいている。好きな物を持ち込み少しでも居心地良く安心して過ごしてもらえるようにしている。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれたり、家族等の写真が掲示されるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間のホールでは、車椅子利用者が自分で自由に行き来できるような家具の配置にしたり、歩行に不安のある利用者には、要所に手すりを設置。トイレや洗面台には、それぞれの届く位置にペーパーを取り付けている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社 ライフステージ		
事業所名	グループホームひだまり Bユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3-5		
自己評価作成日	H25年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旭川駅から車で5分と近く、周辺には堤防があり閑静な住宅街に当ホームがあります。施設の周りには、花壇や畑があり時折々季節を感じられます。当ホームには、統合診療医が2週に1度来られ、入居者様の健康管理をしていただいております。緊急時の協力体制も強化しつつ、医療連携も行っており、訪問看護が週1回来られ入居者の健康管理や相談等を行い、全員の体調把握しております。また24時間の連絡体制も可能です。利用者様にとって安心できる心の拠り所となる施設を目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901613-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年1月16日

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通い易い場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ふれあい」「支えあい」「思いあい」「語りあい」「広げあい」5つのあいの理念を掲げ、地域密着型サービスの意義を全職員が確認しあい、温かな環境作りを目指しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園の行事へ参加している。地域の中学校から毎年、ボランティアとして1日施設で活動している。近隣施設のお祭りに参加している。時々散歩に出かけ、近隣の方々とあいさつを交わし交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、日々の実践内容を踏まえて、地域の会合等に参加し、認知症ケアについて意見交換をしている。また人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族、地域の方、市の職員の方々に参加をいただき、日常の支援の実際を見ていただいたり報告を行い、意見やアドバイスをいただきサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市で行われている研修に参加をしている。また運営推進会議に、市の担当者へ出席を願い、実情を報告し、協力関係を築きケアサービスの資質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送りで、拘束がなかったかを確認しあっています。日中は玄関の施錠はかけずに、常に見守りを行い事故防止に努めています。入居者の方が自由に行動ができるよう、ホールドアの解放などしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に勉強会を実施している。虐待に対する認識を高め、全職員が理解し周知徹底されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、必要時に適切な判断をし、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を用いて項目ごとに説明をしている。疑問や不安は、気軽に聞いていただけるような環境を作っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の通信に記載し、要望・意見・相談・苦情など気軽に気兼ねなく話していただくようにお伝えをしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議や毎日の申し送り時等、職員の意見等を聞き、ケア内容の充実に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、資格、個々の努力や柔軟な対応に対し評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修など、出来るだけ多く参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括を通じ、近隣のグループホームの集まりを設定し、意見交換や個々の施設の見学会を行い、サービス向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人と会う機会を作り、日常生活で困っている事や要望を確認しながら、信頼関係ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の機会を数回設定し、出来るだけ多くの情報を収集し、職員間とも共有し安心して生活ができるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い等で、ご本人・ご家族の求めている事を把握し、必要としている支援サービスの利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の性格、生活歴を把握し、それに応じた支援に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人のお話を聞き、お互いの関係が円滑にいくようにサポートし、ご本人の状況や変化を伝え、施設と家族の関係を良好にしていこうと、サービスのより良い向上を目指しています。お誕生会やお祭りなどの行事は、ご家族と一緒に楽しんでいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族等へ行事の参加を呼びかけている。ドライブや外食等支援を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は極力ホールで過ごしていただき、レクリエーションに参加し皆さんと交流できるように支援している。孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された後も、ご家族から相談を受けたり訪問したり、関係づくりを大切にしながら、家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切にし、出来る限り希望に添えるようにしている。困難な場合には、納得できるまできちんと説明している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活環境、思いや希望を大切に、自己決定ができるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過を記録に残し、スタッフ間での情報を共有。日々の変化を見逃さないよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には、思いや意見を聞き、モニタリングを行い、月1回全職員でのミーティングや、日々の申し送りで話し合い、意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別に介護記し、介護計画に活かし、全職員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを聞き入れた事を話し合い、出来るだけ希望にそった支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に加入し、町内の行事参加、「おもいやり」の配布等で、地域住民の理解が得られるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望、同意のもとかかりつけ病院の往診を定期的を受けている。何かあったときは、速やかに連絡をし、指示をもらい対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも変化があった時には、全職員が把握できるように引き継ぎをし、訪問看護やかかりつけの医に連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の支援に関する情報を医療関係機関に提供し、入院中も病院関係者との情報交換し、常に連絡を取り合える関係づくりができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応指針を定め、ホームとして出来る事を家族に十分に説明をして、主治医と連携を取り支援に繋げている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、各利用者様の担当医に連絡をし、素早い対応ができるようにしている。消防機関を招き、急変時の対応や救急救命、AEDの使用法の講習会も開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、日中と夜間を想定して年2回避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、避難経路の確認、緊急時の対応の訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない様に、個々に合わせた対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いに、耳を傾け理解し自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞き入れ、その時の状況を見ながら個人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や入居者の好みを聞き入れ、体調に合わせて支援している。定期的に訪問理美容を利用し、全員のカットをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事食、盛り付けを工夫したり、外出行事では回転寿司に行ったりと、食事に楽しみを持っていただけるように機会を作っている。誕生月の入居者の方とそのご家族には、好みのメニューを提供している。お手伝いの可能な利用者様には、毎日の食器洗いやテーブル拭き、ゴミ収集に参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日最低でも食事以外で1500mlを目指して水分摂取を行っている。夜間帯にトイレに起きていた際にも、水分を取ってもらうように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の口腔状態や能力に応じたケアをして、毎食後うがい・歯磨きを施行し、口の中を清潔に保つようしている。必要時歯科の往診を受け、アドバイスをいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。又、尿量や間隔を把握し、リハパン・パットを使い分け、こまめに声掛けしながら誘導し、自力で排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、適度の運動を勧めている。状況に合わせて医師の処方による下剤を使用し、個々に応じ予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調を確認しながら、週2回の入浴をしている。拒否などある場合は、本人の意思を尊重し個々に合わせて、曜日の変更・シャワー浴・清拭・足浴にて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を把握し、無理強いせず、眠くない時は起きてもらい、眠たい時には寝てもらうように、利用者様の睡眠リズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋のファイル一覧表があり、必要時確認をしている。処方が変わった時には、連絡ノートに記入し全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が、充実した生活を送っていただけるよう、一人ひとりに合った役割や楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、近所を散歩したり施設の畑に水を撒いたりしています。また季節ごとに、花見や紅葉見学に出かけたり、ドライブも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に合わせた対応をしている。本人の希望で、お金を所持している入居者の方は、職員が時々確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたが、字を書くことはなかなか難しいが、手紙等をいただくとても喜んでいて、理解が難しい入居者の方は職員と一緒に見たり代読している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の確認、換気は常に行っている。冬場は加湿器や濡れタオルを干して対応している。又、季節感を取り入れ、お花を飾ったり、行事に合わせた飾り付けをして、心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファーや食席で、気のあう利用者同士で雑談をしたり、カラオケやDVDを観て楽しんでいる。居眠りしている利用者様には、ホールのソファーに横になったり状況に応じて居室で休む等、個々思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れた家具や、家族の写真などを飾り安心して過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全を心がけ、一人ひとりのペースに合わせて介護するようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまり

作成日: 平成 26 年 1 月 17 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災訓練は年2回実施しているが、地震・水害等の災害避難訓練は行っていない。災害時における地域との連携関係が具体的にない。	地域にあった効果的な訓練を実施する。災害時における地域との協力関係を構築する。	災害のみならず、地震・水害の災害時対応のマニュアルを作成する。地域住民参加型の避難訓練を実施する。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。